

働き方に関する政策決定プロセスについての これまでの主な議論の整理（論点整理）（案）

1. 総合的・中長期的な議論が不足しているのではないか

- 制度改正等の短期的な議論が多く、労働政策の基本的方向性や中長期的なあり方の議論が十分ではないのではないか。
- 政府の会議体が決定した雇用労働政策の大枠に沿って法案等の議論が行われており、戦略的議論が十分ではないのではないか。
- 具体的な制度設計を行っている各分科会、部会の横通しが十分ではないのではないか。

2. 議論が硬直化している可能性があるのではないか

- 労使の利害調整の色彩が強く、公益的な観点からのエビデンスに基づく議論が十分ではないのではないか。
- 議論の質を確保しつつ、必要な政策決定スピードが確保されているか。

3. 多様な意見が十分に反映されているのか

- 正規・非正規労働者、産業、地域、年齢等の観点から見て、多様な働き手や企業等の意見が政策に十分に反映されているか。

4. 労政審の意義と構成をどう考えるか

- 労政審で政策や制度改正などを議論することをどう考えるか。
- 労政審における公労使三者構成、労使同数の意義についてどう考えるか。